

令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査結果
(報告書より抜粋)

1 調査方法

郵送による配布

郵送、またはインターネットによる回収

2 調査対象

北九州市民のうち、日本国籍をもつ市民10,000人(住民基本台帳から年代別に無作為抽出)。

【内訳】

年齢	対象者数	調査票毎の 対象者数	
0～6歳(未就学児)	800人	1,600人	※
7～12歳(小学生)	800人		
13～18歳(中高生等)	1,200人	1,200人	
19歳・20歳代	1,600人	7,200人	
30歳代	1,300人		
40歳代	1,100人		
50歳代	1,100人		
60歳代	1,100人		
70歳代以上	1,000人		
合計	10,000人	10,000人	

※0～6歳(未就学児)及び7～12歳(小学生)は保護者による回答

3 回収状況

年齢	配布数 【A】 (件)	有効回収数 【B】 (件)	郵送 回収数 (件)	インターネット 回収数 (件)	有効回収率 【B/A】 (%)	郵送 回答率 (%)	インターネット 回答率 (%)
0～6歳 (未就学児)	800	300	65	235	37.5	8.1	29.4
7～12歳 (小学生)	800	349	105	244	43.6	13.1	30.5
13～18歳 (中高生等)	1,200	319	96	223	26.6	8.0	18.6
19歳・20歳代	1,600	292	67	225	18.3	4.2	14.1
30歳代	1,300	333	80	253	25.6	6.2	19.5
40歳代	1,100	295	93	202	26.8	8.5	18.4
50歳代	1,100	395	155	240	35.9	14.1	21.8
60歳代	1,100	465	306	159	42.3	27.8	14.5
70歳代以上	1,000	475	418	57	47.5	41.8	5.7
無回答	-	19	0	19	-	-	-
合計	10,000	3,242	1,404	1,838	32.4	14.0	18.4

4 調査結果（歯と口腔の健康）

（1）残存歯数

◆現在、自分の歯は何本残っていますか。【対象：19歳以上】

- ・全世代の平均残存歯数は **24.78 本**
- ・性別・年代別では、女性は男性と比べて平均残存歯数が多く、64歳以下のすべての年代で「24本以上」が75%を超えている
- 65歳以上では、75歳以上の後期高齢者において男女とも「20本以上」は5割を下回り、平均残存歯数は20本に満たない数となっている

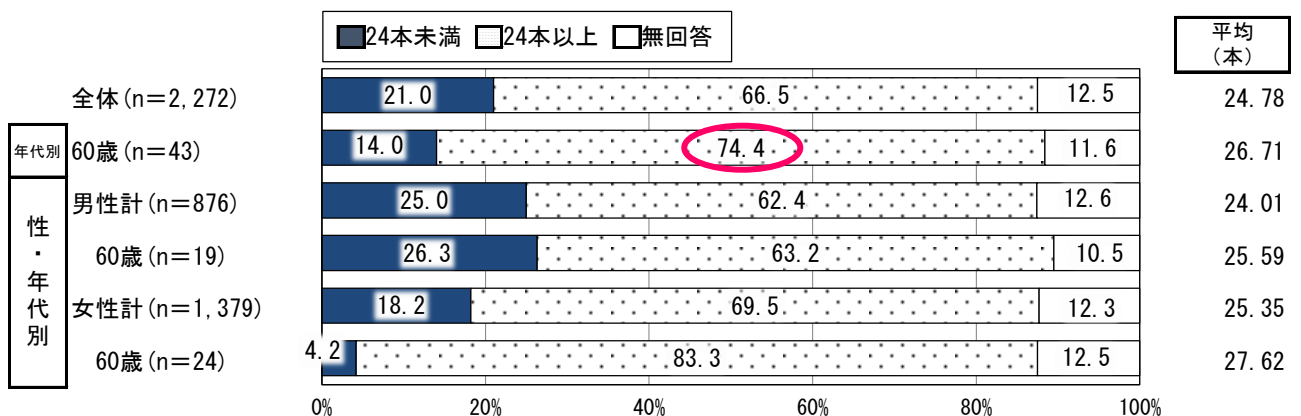
19歳以上の残存歯数（性別・年代別）

		サンプル数	24本未満	24本以上	無回答	平均（本）
全体		2,272	21.0	66.5	12.5	24.78
性別・年代別	男性計	876	25.0	62.4	12.6	24.01
	19～29歳	111	1.8	74.8	23.4	28.98
	30～39歳	124	2.4	83.9	13.7	28.52
	40～49歳	106	15.1	72.6	12.3	26.73
	50～64歳	229	23.1	64.6	12.2	24.71
	女性計	1,379	18.2	69.5	12.3	25.35
	19～29歳	179	-	76.0	24.0	29.09
	30～39歳	209	1.0	80.9	18.2	28.56
	40～49歳	188	4.3	83.0	12.8	27.77
	50～64歳	358	16.8	76.0	7.3	26.10

		サンプル数	20本未満	20本以上	無回答	平均（本）
全体		2,272	13.4	74.1	12.5	24.78
性別・年代別	男性計	876	16.6	70.9	12.6	24.01
	65～74歳	202	31.2	62.4	6.4	20.59
	75歳以上	102	42.2	45.1	12.7	16.92
	女性計	1,379	11.1	76.6	12.3	25.35
	65～74歳	260	18.8	73.8	7.3	23.02
	75歳以上	184	40.8	49.5	9.8	18.49

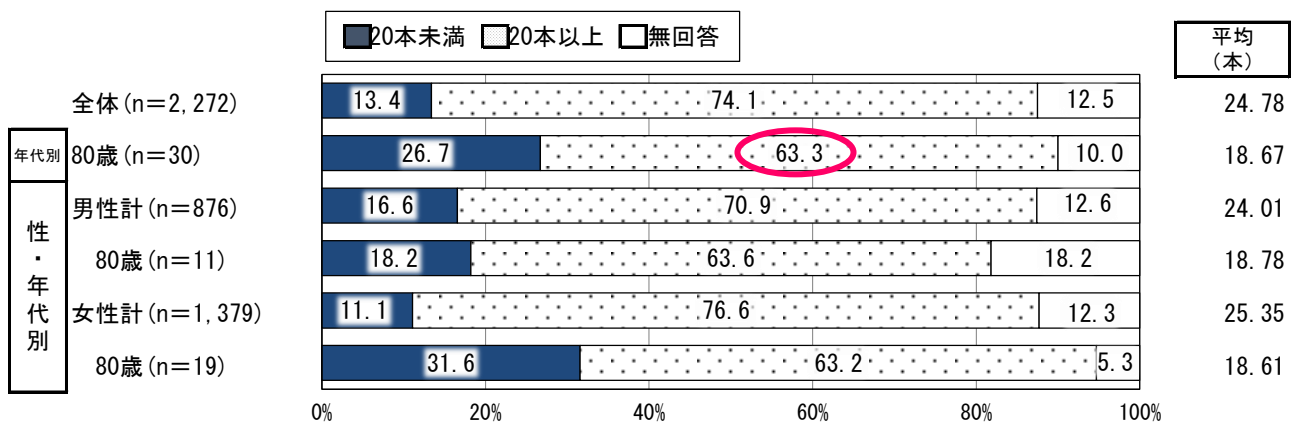
・60歳で残存歯数が24本以上ある人の割合は **74.4%**

60歳の残存歯数（性別）



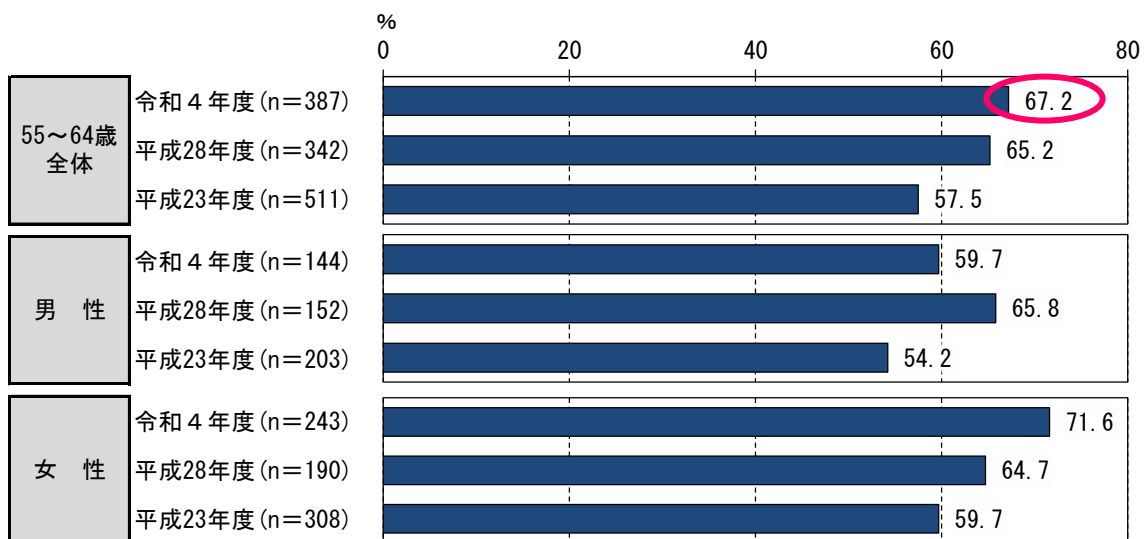
・ 80 歳で残存歯数が 20 本以上ある人の割合は 63.3%

80 歳の残存歯数（性別）



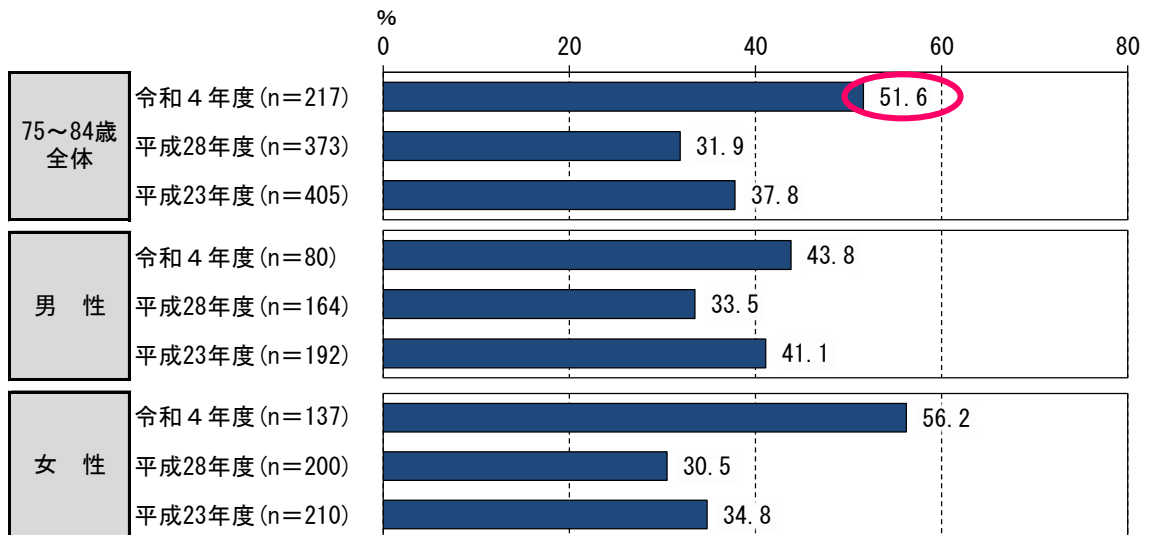
・ 55～64 歳で 24 本以上自分の歯がある人の割合は 67.2%で、平成 23 年度の 57.5%、平成 28 年度の 65.2%と比較して増加している

55～64 歳の残存歯数が 24 本以上ある人の割合（性別、経年比較）



・75～85歳で20本以上自分の歯がある人の割合は51.6%で、平成23年度の37.8%、平成28年度の31.9%と比べて有意に増加している

75～84歳の残存歯数が20本以上ある人の割合（性別、経年比較）

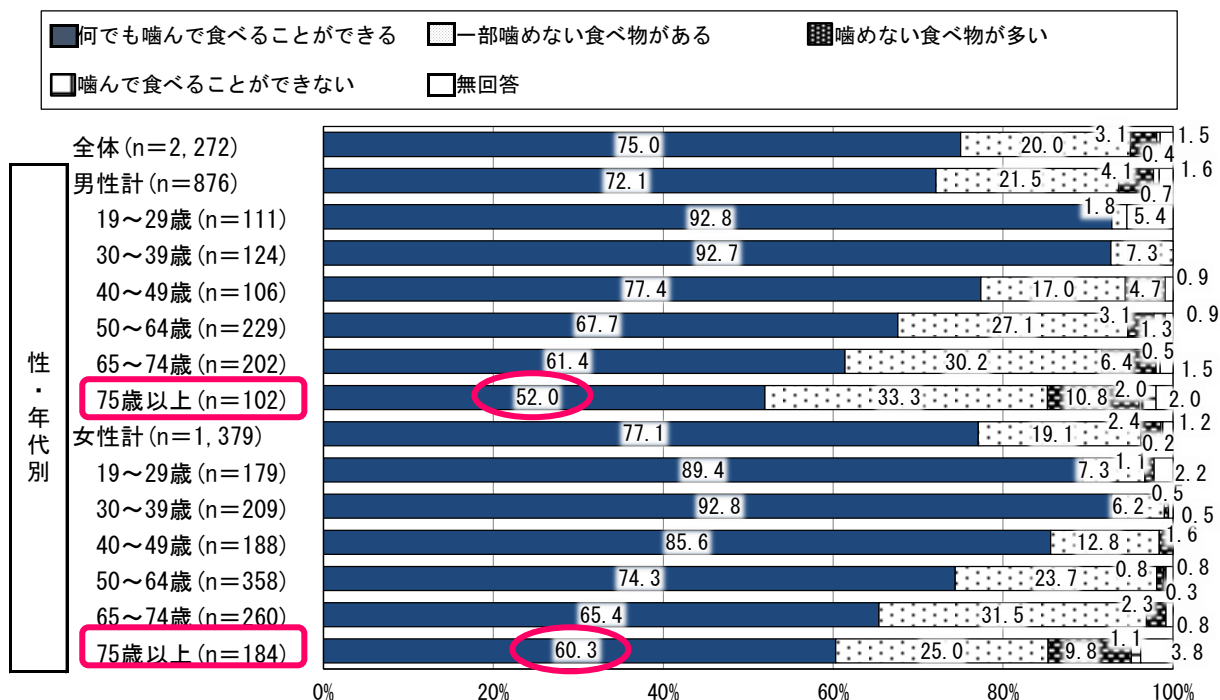


(2) 咀嚼状況

◆しっかり噛むことができますか。(○は1つ)【19歳以上】

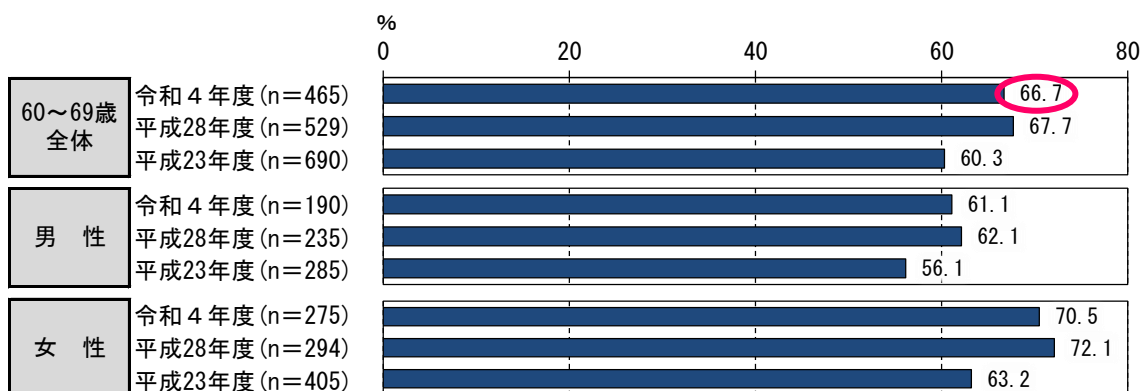
- ・「何でも噛んで食べることができる」が75.0%で最も高く、次いで「一部噛めない食べ物がある」が20.0%、「噛めない食べ物が多い」が3.1%となっている
- ・性別・年代別でみると、「何でも噛んで食べることができる」は年齢が上がるほど低くなっており、75歳以上は男性で52.0%、女性で60.3%となっている

19歳以上の咀嚼状況（性別・年代別）



- ・60歳代における何でも噛んで食べることができる人の割合は、平成28年度の調査結果とほぼ同水準となっている

60～69歳で咀嚼良好者の割合（性別、経年比較）

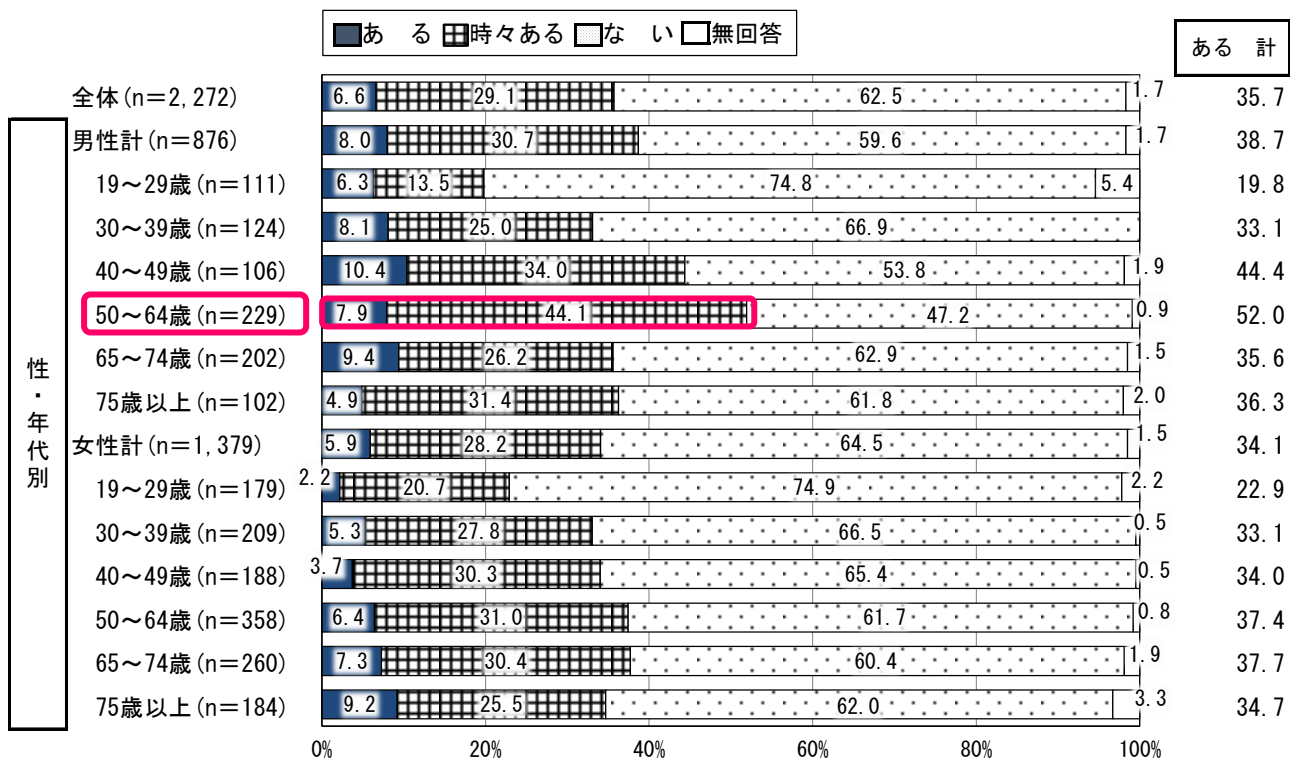


(3) 歯ぐきの状態

◆歯ぐきが赤く腫れて血が出たりぶよぶよしたりすることがありますか。(○は1つ)
【19歳以上】

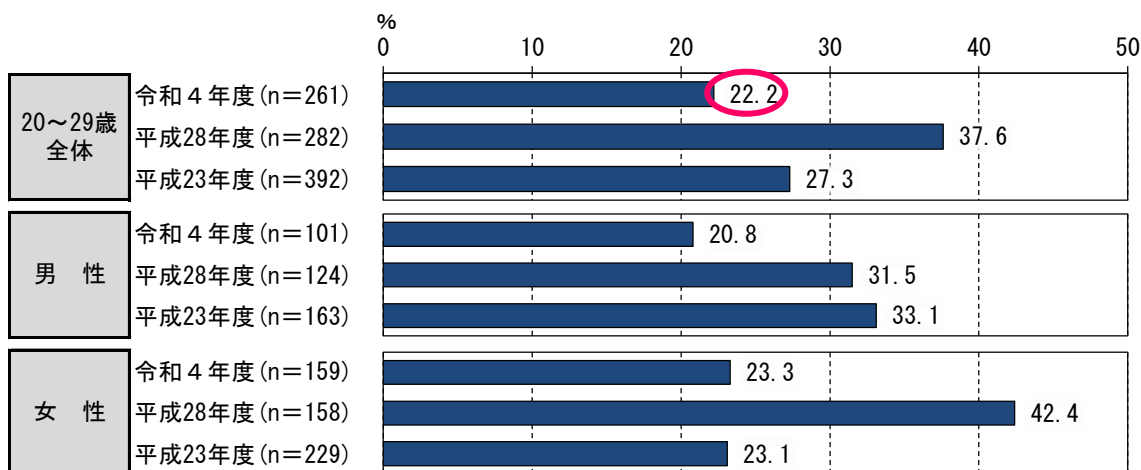
- ・歯ぐきが赤くはれて血が出たりぶよぶよしたりすることが「ある」と「時々ある」の人の合計の割合は、35.7%
- ・性別・年代別にみると、50～64歳の男性が52.0%で最も高くなっている

19歳以上の歯ぐきの状態（性別・年代別）



・20歳代における歯ぐきが赤くはれて血が出たりぶよぶよしたりすることが「ある」「時々ある」人の割合は、平成28年度から令和4年度の6年間で有意に減少

20～29歳の歯肉に炎症所見を有する者の割合（性別・経年比較）



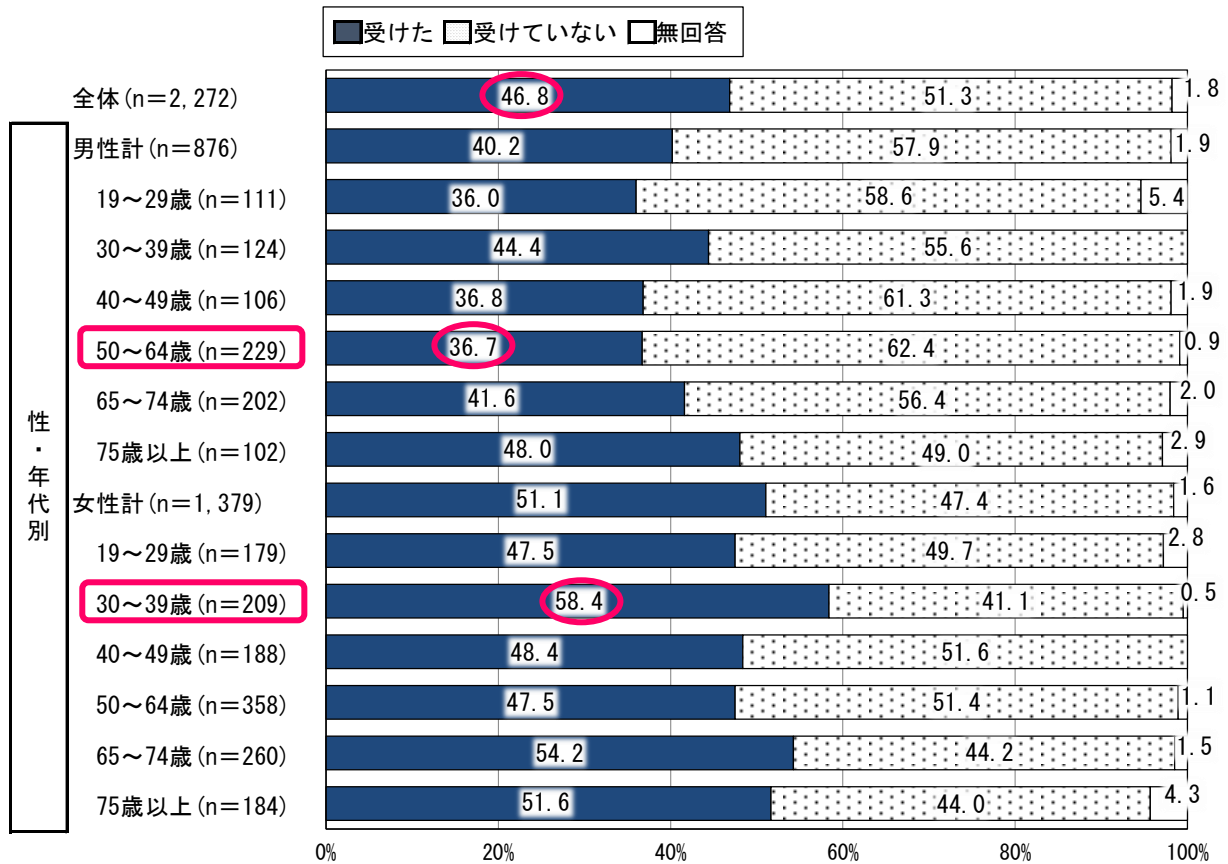
(4) 歯科健康診査の受診状況

① 歯科健康診査の受診状況

◆この1年間に歯科健康診査を受けましたか。(○は1つ)【19歳以上】

- ・5割近くの人が、調査回答日前1年間に歯科健康診査を受診
- ・性別・年代別で見ると、30歳代女性の割合が58.4%で最も高く、50～64歳男性の割合が36.7%で最も低い

19歳以上の歯科健康診査の受診状況（性別・年代別）

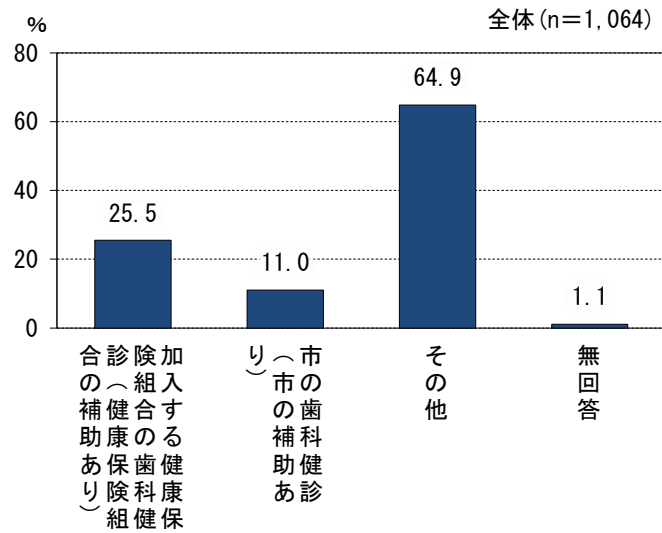


②受けた歯科健診の種類

◆どのような種類の歯科健診を受けましたか。(○はいくつでも)【19歳以上】

・「加入する健康保険組合の歯科健診」が25.5%、「市の歯科健診」が11.0%、「その他」が64.9%となっている

19歳以上の受けた歯科健診の種類

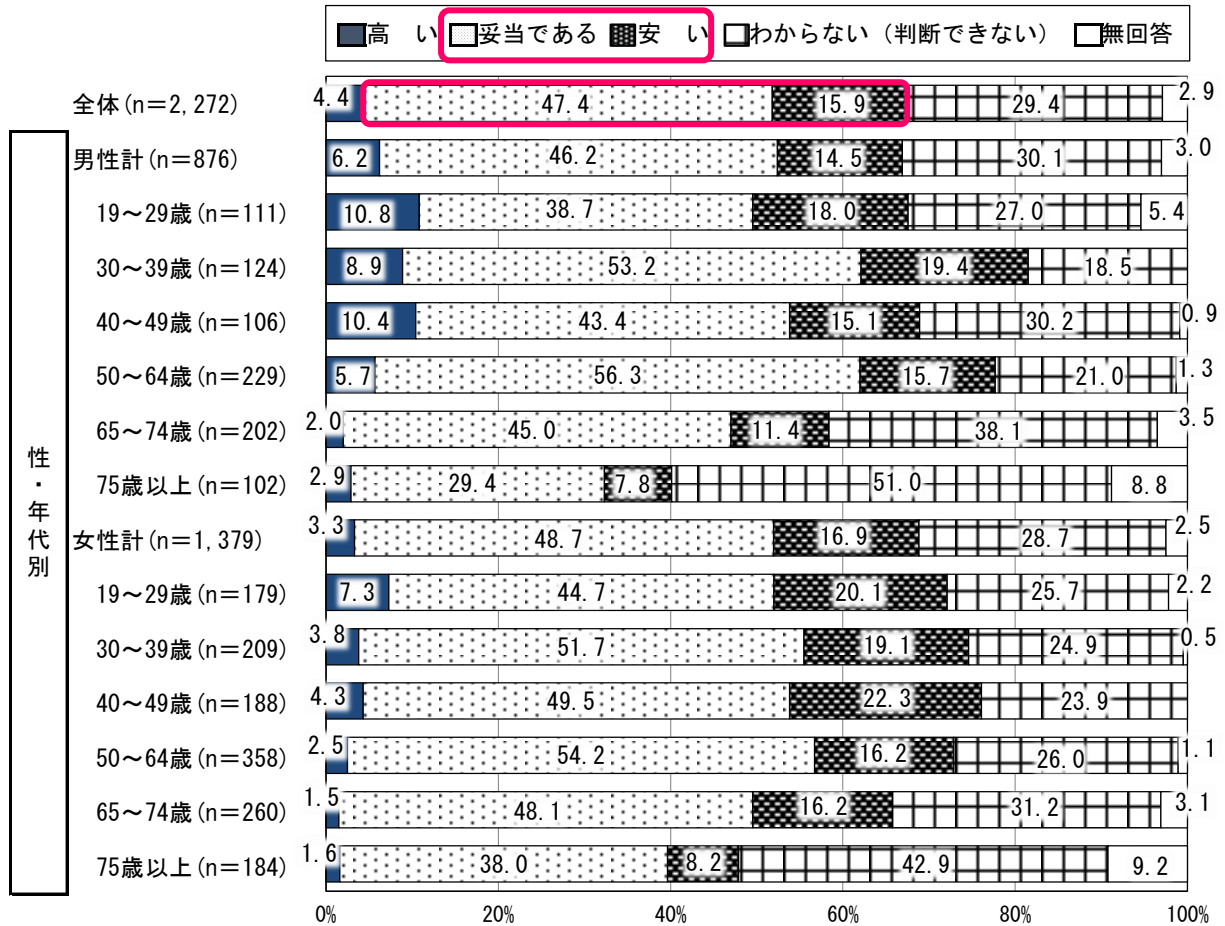


(5) 歯周病（歯周疾患）検診受診料の妥当性

◆歯周病（歯周疾患）検診の検診料（500円）について、どのように思いますか。
 （○は1つ）【19歳以上問55】

・「妥当である」と考える人が最も多く、5割近くを占めており、「高い」は4.4%、「安い」は15.9%で、概ね肯定的に捉えられている

19歳以上の歯周病（歯周疾患）検診受診料の妥当性（性別・年代別）



(6) 歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係についての認知状況

◆歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係について、次のことを知っていますか。
(○はいくつでも)【19歳以上】

・認知状況について、「よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる」が83.5%で最も高く、次いで「歯、歯肉、口腔(お口)の健康は、全身疾患と関係がある」が53.3%、「歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎(高齢者の誤嚥性肺炎等)の予防につながる」が47.8%となっている

・性別・年代別で見ると、19～29歳、30歳代の男女いずれも「喫煙(たばこ)は歯周病(歯槽膿漏)に悪い影響を与える」ことを知っている人の割合が高く、「よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる」に次ぐ高い割合となっている

19歳以上の歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係についての認知状況(性別・年代別)

単位：%

	サンプル数	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる	歯、歯肉、口腔(お口)の健康は、全身疾患と関係がある	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎(高齢者の誤嚥性肺炎等)の予防につながる	喫煙(たばこ)は歯周病(歯槽膿漏)に悪い影響を与える	歯周病(歯槽膿漏)は相互に深い関係がある	無回答	
全体	2,272	83.5	53.3	47.8	44.7	32.6	7.3	
性別・年代別	男性計	876	78.3	44.3	37.2	44.5	28.4	8.9
	19～29歳	111	75.7	39.6	29.7	48.6	27.0	12.6
	30～39歳	124	76.6	33.1	29.0	49.2	18.5	12.9
	40～49歳	106	81.1	36.8	31.1	43.4	22.6	9.4
	50～64歳	229	85.2	47.2	36.2	44.1	25.3	7.0
	65～74歳	202	78.7	54.5	42.6	44.1	40.1	5.0
	75歳以上	102	65.7	44.1	53.9	37.3	32.4	10.8
	女性計	1,379	87.1	59.2	54.7	45.0	35.3	6.0
	19～29歳	179	81.0	51.4	45.3	60.9	30.7	14.0
	30～39歳	209	89.0	55.5	48.3	55.0	36.8	7.2
	40～49歳	188	93.6	54.8	50.0	46.3	35.6	3.2
	50～64歳	358	90.5	69.0	59.8	45.5	40.8	3.1
65～74歳	260	86.2	65.0	55.8	33.8	33.8	4.6	
75歳以上	184	78.8	48.9	64.7	32.1	29.3	7.6	

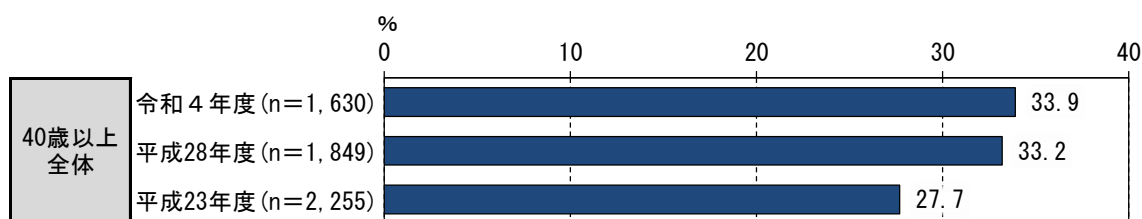
・経年で比較すると、「歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある」や「歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる」の認知度は、平成23年度から令和4年度の11年間、平成28年度から令和4年度の6年間でみると、有意に増加し、順位が入れ替わっている

19歳以上の歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係についての認知状況（経年比較）

	サンプル数	1位	2位	3位	4位	5位
令和4年度全体	2,272	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる (83.5%)	歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある (53.3%)	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる (47.8%)	喫煙は歯周病に悪い影響を与える (44.7%)	歯周病と糖尿病は相互に深い関係がある (32.6%)
平成28年度全体	2,699	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる (84.5%)	喫煙は歯周病に悪い影響を与える (46.8%)	歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある (45.4%)	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる (42.9%)	歯周病と糖尿病は相互に深い関係がある (30.6%)
平成23年度全体	3,351	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる (81.9%)	喫煙は歯周病に悪い影響を与える (43.1%)	歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある (38.1%)	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる (32.9%)	歯周病と糖尿病は相互に深い関係がある (24.4%)

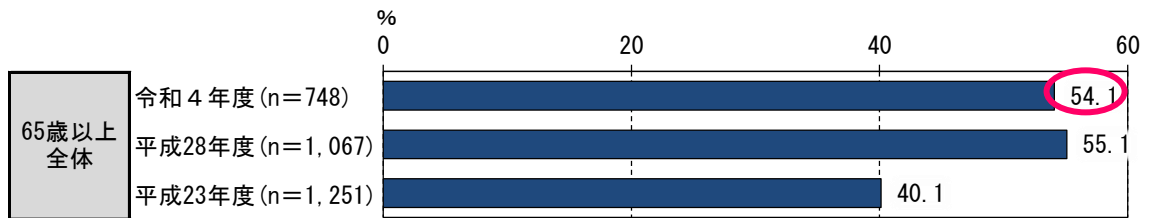
・歯周病（歯槽膿漏）と糖尿病は相互に関係があることを知っている40歳以上の割合は平成23年に27.7%、平成28年に33.2%、令和4年度に33.9%と、前々回、前回調査と比較して増加

40歳以上の歯周病（歯槽膿漏）と糖尿病の関係を知っている人の割合（経年比較）



・口腔ケアの重要性の認知度として、65歳以上の口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている人の割合は、平成23年に40.1%、平成28年に55.1%、令和4年度に54.1%と、前々回調査よりは増加しているものの、前回調査と比較すると減少している

65歳以上の口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている人の割合（経年比較）

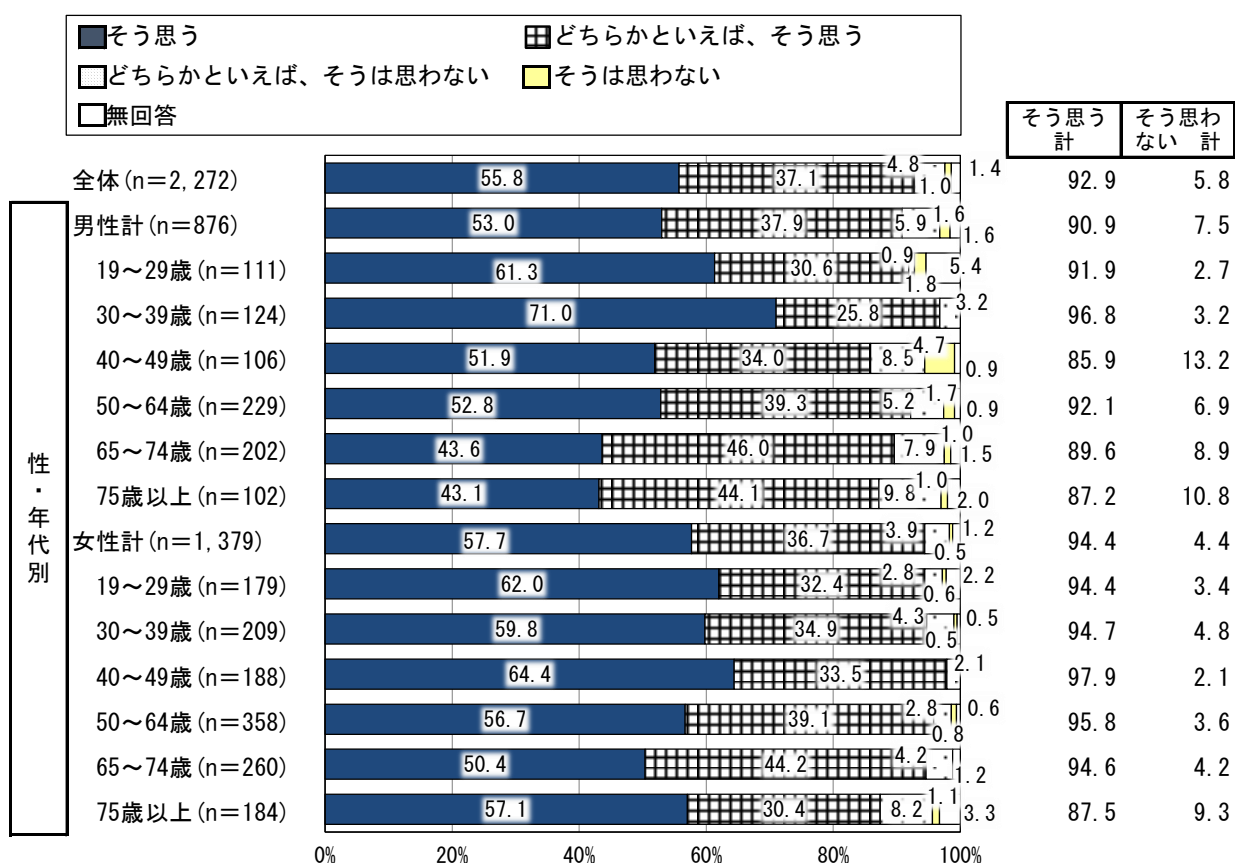


(7) 毎日の食事がおいしいと思うか

◆毎日の食事がおいしいと思いますか。(○は1つ)【19歳以上】

- ・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計の割合は92.9%、「どちらかといえば、そうは思わない」と「そうは思わない」の合計は5.8%
- ・性別・年代別でみると、『おいしいと思う』は男性より女性の方が1.9ポイント高く、特に40歳代の女性が97.9%で最も高く、最も低いのは40歳代の男性の85.9%となっている

19歳以上の毎日の食事がおいしいと思うか(性別・年代別)



- ・40~64歳における「そう思う」の割合を経年比較すると、平成23年度から令和4年度の11年間、平成28年度から令和4年度の6年間でみると、有意に減少

40~64歳の毎日の食事がおいしいと思う者の割合(経年比較)

